



令和3年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ

長野高等学校 学校長だより

(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和3年
No 6

7月9日(金)

感染症対策を施しながら、例年に近い形で金鷄祭実施。

3日間の金鷄祭が終了しました。感染症対策のために一般公開をしない、食堂等の飲食・調理なし等、例年との違いはありましたが、できるだけ例年に近い形で金鷄祭を目指しました。文化部が少ないために発表ができない、飲食等のイベントができない等の理由で、文化祭の規模・期間を縮小せざるを得ない学校もある中、本校は運動班だけでなく**文化班も県下有数の規模を誇っているために展示・発表ができるという強み**があるため、日程等の短縮もなく3日間という期間で行いました。



管弦楽、華道、ダンス、かるた、茶道



さらに言えば、総じて長野県の高等学校における**文化祭の充実度は全国有数**です。それは今述べたように文化部等の活動が活発であることと、生徒の自治活動が盛んであるという伝統があるからです。それを裏付けるように平成30年(2018年)8月に長野県で開催された『信州総文祭』(第42回全国高等学校総合文化祭)の折には、私(宮本)は県教委事務局にいたので、主催者側からの声を聞く機会が多々ありましたが、関係者から「他県では、どちらからという主催県の教委が主体となって実行」という形が多いが、「本県では日頃の各専門部(吹奏楽や演劇等の部門)の生徒や先生が本当に主体となって準備・実施をした」という声・感想が聞かれました。ですから、**金鷄祭はもしかしたら文化祭の規模としては全国有数なのかもしれませんね**(エビデンスに基づいているわけではありませんが……)。さて、金鷄祭の企画・運営の責任者である金鷄祭推進委員長(3年竜野愛子さん)と副委員長(3年山崎美和子さん、2年田中結斗さん)に、それぞれから個人的な感想を聞きました。

『準備期間、特に1カ月前は大変で、家には食事と寝に帰るだけという感じでした。でも当日は楽しんでもらっている様子で良かったです。金鷄祭終了後に、通りすがりに「楽しかった」という会話も聞けて、本当に嬉しく思います。(竜野さん)』『準備期間は私生活を犠牲にして金鷄祭のことしかやっていませんでした。あっという間でした。役員なので頼み事等、嫌われ役もやって色んな面で大変でしたが、準備期間は充実していました。楽しんでもらっている声を聞いて嬉しいし、やって良かったと思っています。(山崎さん)』『一言で言えば去年より楽しい金鷄祭でした。去年はクラス企画や食べ物



山崎さん、竜野さん、田中さん
(この日は偶然3人も白Tシャツ!)

関係ができず、今年は1・2年にとって初めて文化祭っぽかったです。SNS等で「去年より楽しかった」等の声を見てやりがいがありました。(田中さん)』

役員の皆さん本当にお疲れ様でした。文化祭の中でそれぞれの担当者として役割を果たす体験や経験が大きな意味を持つのであり、長野県の高校生の多くが文化祭を通じて、実社会で重要な企画力・実践力を培う事に繋がっていくわけです。皆さんがそれぞれの役割の中で果たした金鵒祭での経験は何物にも代えがたいもので一生の宝物になるのだと思います。

「学びの指標」(本年度は試行)を今後検討しながら、面談等に活用していきます。

昨年から報道でもしばしば取り上げられている標記の件について、本年度は試行ということで、取り組みはすでに始まっていますが、詳しいことはHPに県の資料(2ページ分)を掲載しました。本校では、春の「生活実態調査」の折に、質問事項の最後に質問項目をプラスして、生徒の皆さんに向けて「学校独自質問(5問)」と「全県共通質問(3問)」を実施しました。質問の項目とその結果について下に示します。

設問1 失敗してもあきらめずに方法を変えてもう一度挑戦している。

設問2 いま学んでいることは、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。

設問3 社会課題について、家族や友人など周りの人と話している。

設問4 自分で社会を変えられると思う。

設問5 自分と違う意見や考え、気持ちを大切にしている。

設問6 自分なりの価値観や考え方を持っている。

設問7 これから先、どのように生きていきたいかを考えている。

設問8 自分には良いところがある。

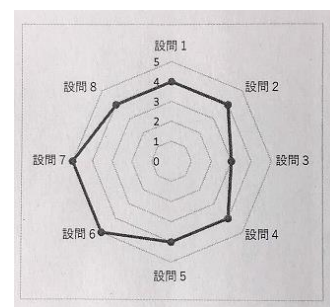
設問1～5
学校独自質問

設問6～8
全県共通質問

全校の集計	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
そうである	25.3%	37.3%	24.9%	11.8%	40.4%	49.4%	32.4%	28.8%
どちらかといえばそうである	54.0%	43.5%	33.3%	25.0%	52.5%	40.5%	41.8%	46.0%
どちらかといえばそうではない	18.4%	15.4%	29.2%	41.4%	6.1%	8.1%	20.2%	18.3%
そうではない	2.0%	3.1%	12.3%	20.6%	0.4%	1.4%	4.6%	5.0%
回答できない・回答したくない	0.4%	0.7%	0.2%	1.2%	0.6%	0.6%	1.1%	1.9%

学校全体の傾向として集計結果を上記しました。その数字をどう見るかについては様々な見方がありますが、「設問5」と「設問6」では肯定的な回答が多く「**違う意見・考え・気持ちも大切にしながらも、自分なりの価値観・考え方を持っている**」傾向が読み取れます。また、「設問3」では、社会課題について話題にしている人が、私の印象よりも多く「**結構いるなあ**」という感想を持ちました。でも「設問4」では「**自分で社会を変えられる**」とはあまり思えない、という人が多いことも事実で、このあたりが課題(本校だけの問題ではありませんが)なのかな、と感じました。

個々の生徒さんがどう回答したかは、レーダーチャートにして担任の先生に返却しましたので、それぞれの担任の先生の段階で面談等に活用予定です。今回は、取り急ぎ学校で質問項目を考えて、生活実態調査に付随してアンケートしましたが、今後のやり方、取扱いや質問項目の是非等について改善を図っていきたいと考えています。



レーダーチャート

(生徒の皆さんは、この学校長だよりを読んだあと、保護者の方に渡してください)